

二代目社長から長女への事業承継 《親族内承継》

株式会社福永製作所（京都市伏見区横大路下三栖里ノ内14-1）

現社長：福永好展さん（71歳）

後継者：福永有希さん（50歳）長女 / 取締役

支援協力：京都信用金庫 伏見支店

相談者（事業）の概要と支援の経緯

- ▶同社は1957年に現社長(好展さん)のお父様が京都市山科区の自宅横にて開業された精密機械部品加工の事業所です。
- ▶現社長は1971年に事業に従事し、下請けからの脱却を目指して「技術提案」により取引先を開拓、1981年に有限会社へ、2003年には現在の株式会社への改組を進める中、工作機械装置の導入、自社独自の技術を強みとして営業を積極的に展開し業容を拡大されました。
- ▶会社の経理は社長夫人が担当、実娘3名と孫（長女の息子が四代目候補）も同社に入って、家族で事業を盛り上げてこられました。
- ▶社長が70歳を超えて、今後の事業継続を考えた際、技術やビジネスモデルの継承に不安を感じ、メインバンクの京都信用金庫(伏見支店)に相談され、同金庫は京都府事業承継・引継ぎ支援センターとの連携により、事業の分析、経営課題の整理を行い現社長から三代目、四代目への事業承継に向けた行動計画の策定支援に着手しました。



右側奥から社長夫人、福永社長、四代目となる予定の和晃さん(有希さんの長男)、後継者の三代目(有希さん)
左側奥から、京信用金庫伏見支店奥村氏、同事業アトツギ支援部中西氏、左手前が、専門家派遣で支援された竹田税理士

- ▶当センターが派遣した外部専門家(竹田税理士)により事業の現状把握(見える化)と共に、事業の将来像について現社長と後継者を交えた忌憚のない話し合いを重ね、メインバンクの本部職員、支店担当者も参加する中で、事業承継の計画策定に取り組みました。

当センターの支援

専門家派遣による事業承継計画書の策定支援

受注判断、営業を現社長が担ってきたため、技術・営業面の経験のない長女に事業を承継することについては「親子間の会話」以上の話が出来ておらず、今回、当センターにご相談いただいたことで、専門家税理士による経営課題の整理が行われ、社長から長女へ、また将来的には、孫への計画的な事業承継を実現していく事業承継計画書の作成支援を実施し、関係者の合意を得ることができました。

メインバンクによるサポート

計画実施の進捗管理と伴走支援

今回の支援で取り纏めた「事業承継計画」ですが、最も重要なことは、今後それを着実に実行することであり、京都信用金庫伏見支店担当の奥村氏からは計画実施（進捗の管理など）に対するモニタリングと伴走支援への協力をいただくこととなりました。



二〇二〇年五月に現所在地に移転した工場

事業承継計画の検討と今後の展望

- ▶工場現場に現社長の孫(有希さんの息子) (30歳)が入って技術の修得、取引先ニーズの把握に努めており、現社長が一手に担っていた営業を、孫を中心としたチームにチャレンジさせる方針と、管理業務は社長夫人から長女へ計画的に移行していくことの確認を行いました。



ひとこと

今回の案件は、技術自慢の町工場の社長が、家業に従事してきた長女への事業承継の事例です。技術営業で会社を支えてきた現社長が、技術畑ではなかった長女からの承継打診に不安を感じ、話し合いがうまく進まなかった事例と言えます。今回は、第三者として事業経営の専門家に加わっていただくことで当事者（親子、孫）が納得する事業承継計画書を作成することができました。親族間の事業承継をお考えの経営者様は、是非、専門家派遣による事業承継計画書策定の支援施策をご活用いただきたいと思います。